

清流長良川 ～山・川・海のつながり～

岐阜県郡上市立郡南中学校
1年生 42名

I. はじめに

私たちの郡南中学校は、岐阜県の中央、中濃地区に位置し、近くには世界農業遺産の鮎で有名な清流長良川が流れている。

今年度、郡南中学校では、総合的な学習の時間にSDGsの視点から、持続可能な長良川を探求課題として学習を進めた。1年生では、山、川、海のとつながりについて調べながら、「長良川について知る」ということを目標に学習を行った。

II. 調査方法

調査は、4つのテーマ(①清流長良川、②水生生物、③川と山の関係、④長良川の恵みをいかした料理)に分かれ、それぞれのグループでインターネットを活用しながら各テーマについて調べた。また、郡上市役所の方に、昔の美並地区のいかだ文化について話を聞いたり、岐阜県産の木材を使用した下駄づくりを体験させてもらったりした。校外研修では、長良川上流ひるがの分水嶺や阿弥陀ヶ滝の見学をしたり、美並地区でラフティングをしたりして長良川のよさを体験的に学習した。その後、4つのテーマについての識者を講師に招き学習を深めた。



III. 調査結果の概要と考察・感想

①清流長良川について

- ・長良川は、柿田川、四万十川と共に日本3大清流の一つに数えられる。
 - ・長良川は流域に10市2町があり、流域の人口は約80万人である。多くの流域人口を抱えていながら、上流域や中流域で美しい水質を保っている。
 - ・毎年、世界中で10万匹以上の海の生き物が海洋ゴミで命を落としている。餌と間違えて食べてしまったり、ゴミに絡まって死んでしまったりする被害がある。
 - ・海に流れ込む川のゴミが年々増えている。長良川のゴミの量も1990年半ば頃から増えており、不法投棄やポイ捨てなどが原因と考えられる。ゴミの種類は、「プラスチック類」、「缶類」、「タバコ類」などが挙げられ、プラスチック類は特に多く、全体の約65%を占めている。
- 長良川は、流域で多くの人が生活していながらも、日本3大清流に数えられるほど水質が良いことが分かった。しかし、人の出したゴミによる川や海の環境悪化という問題もあることが分かった。

②水生生物について

- ・長良川には、世界農業遺産に認定された鮎や、特別天然記念物のオオサンショウウオが生息し、約31科56属66種の生物が生息している。
- ・鮎は、初冬に川で孵化して海に下り、冬に沿岸域でプランクトンを食べて春を待ち、春に川を遡り成長し、秋に下流で卵を産んで一生を終える。2015年に長良川の天然遡上鮎が準絶滅危惧種に指定された。
- ・川の生き物は、動物プランクトンや小魚、虫、甲殻類、藻類、水生植物などを餌として食べている。近年、川や海に流れ込んだマイクロプラスチックを間違えて食べてしまい命を落とす生物もいる。

長良川には、多くの水生生物が生息していることが分かった。また、上流、中流、下流などの流域によって、生息している生物が少しずつ違ってくるということが分かった。しかし、天然遡上鮎など、生息数が減ってきている生物もいる。また、マイクロプラスチックを食べてしまう生物がいることを知り、マイクロプラスチックによる被害についてもっと調べてみたいと思った。

③川と山の関係について

- ・森林の役割は、地球温暖化や土砂災害を防いだり、生物や美しい空気を守ったりするなどの働きがある。
 - ・郡上市は、約9割を森林が占めており、森林のうち55%が人工林である。
 - ・杉の木一本で、年間、約14kgのCO₂を吸収している。
 - ・木がなくなってしまうと、二酸化炭素が増え、地球温暖化が進んだり、生き物の棲み家がなくなったり、山の保水力が減り洪水が増えやすくなる。
- 森林が地球や動植物にとってなくてはならないものなのだと分かった。また、森林があることで、川の正常な状態が保たれることが分かった。森林が年々減ってきているので、森林を守ったり有効活用したりする方法を考えていきたい。

④長良川の恵みをいかした料理について

- ・川魚料理に使われる魚の例として、鮎をはじめ、アマゴやオイカワ、カジカなどがある。
 - ・鮎は、川によって味が異なり、川の水質が美味しさにつながる。水質が良い川の鮎は美味しく、よくない川は美味しくないらしい。また、時期でいうと、7月後半の鮎が産卵前で栄養を蓄えているので美味しいと教えていただいた。
 - ・鮎を使った料理にも、塩焼きや、雑炊、田楽、鮎飯など、様々な種類がある。さらに家庭では、ムニエルなどさらに色々な調理方法で食べられている。(学年でアンケートをとったら、一番人気の食べ方は、塩焼きだった。)
- 昔からいろいろな川魚が料理に使われていることや、川の水質の良し悪しが鮎の味にもつながっていることが分かった。これからもきれいな長良川が保たれてほしい。

IV. まとめ

- ・長良川はきれいだから特別何かを気にする必要はないと考えていたが、今のまま何もしないでいると山や川がどんどん汚くなってしまふことが分かった。
- ・豊かな山があるから、清流と呼ばれる美しく人が楽しめる川になる。そして、生物の種類や数が増え豊かになる。川がきれいでも生物が豊かであるからこそ、川の恵みを生かした料理が生まれ、美味しく食べることができる。そうやって、山、清流、水生生物、料理はすべてつながっていることが分かった。
- ・山、水生生物、清流、料理のテーマの共通の課題として、山や川に捨てられたゴミ等の人の手による問題があることが分かった。昔より、健康な山が減ったり、川が汚くなったりすることはとても残念に思う。私たちは、今よりもっときれいな長良川を目指して、目の前にゴミがあったら拾うなど、自分にできることに1つ1つ取り組むことで豊かな長良川を守っていきたい。
- ・学習したことを色々な人に発信していくことで、いつまでもきれいな持続可能な長良川を目指していく。